

学生が“社会にいいこと”をするラボ

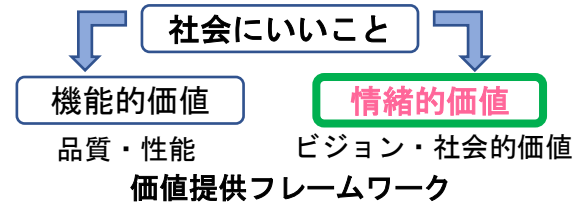
ラボの課題

目的：社会課題の解決に向けて、学生のアイデアでSDGsの実現や社会貢献を果たす

「社会にいいこと」で実現する価値

価値提供フレームワークから、社会課題の解決に向けて、社会に提供すべき価値を「機能的価値」と「情緒的価値」の両面で検討し、その成果を各イベントで実現。

87つのプロジェクトチームが課題解決の実現に向けて、活動をおこなった。



ラボの活動報告

大学の魅力を高校生に伝える手法を検討

岡山理科大学付属高校から岡山理科大学への進学を増やすために、岡山理科大学の魅力を発信し、進学率や期待度を向上させる。

高校生が大学のリアルな情報に触れることで、進学に対する不安やギャップを解消し、キャンパスライフへの期待感を醸成する。

知覚障害者のスポーツ支援活動

本人・保護者・施設職員へのヒアリング調査をもとに、知的障害のある方が安心して参加できる運動イベントを企画・実施する。付き添い体制の確保、少人数制の選択肢、視覚的なルール説明など、参加を妨げる要因(音・待ち時間・ルールの分かりにくさ等)を取り除いた運動機会を提供し、運動習慣の定着を促す。

運動に苦手意識や不安を感じやすい知的障害のある方に、安心できる環境の中で「できた」という成功体験を提供することで、自己肯定感を醸成し、自分から運動を楽しもうとする気持ちを育てる。

もしもに備えるペットの防災

ペットの防災グッズや避難時の注意点、日頃から備えておくことをわかりやすくまとめたパンフレットを作成し、飼い主の防災意識向上と災害への意識を促す。

大切なペットを災害から守る安心感を提供し、飼い主が「備えてよかった」と思えるきっかけを作る。

子供服のリユースサービス

サイズアウトし不要になった衣類を回収・リユースし、必要とする家庭へ移動販売を通して提供する。安価で良質な子供服を入手できるだけではなく、回収から再利用までを地域内で循環させることで、廃棄量削減と子育て世帯の経済的・時間的負担の軽減を実現する。

服を「捨てる」のではなく、「次の子へつなぐ」という体験を通じて、物を大切にする意識や環境への貢献意識を育む。また、利用者同士が支え合う地域コミュニティを形成し、子育てへの安心感や温かいつながりを生み出す。

小学生の読書推進イベント

小学生親子を対象に自然観察や科学体験といった体験学習を実施、それを子供達の読書への入り口とする。中長期的には、地域施設と連携しながら、子供が体験を通して、本に触れらる仕組みづくりを検討する。このイベントによって、子供たちに本への興味を喚起し、主体的な学びを促進する。

体験を通して、子供たちに「知ることが楽しい」、「自分で見つけられた」という実感や達成感を得られる。また、親子で発見を共有することで、本とのポジティブな思い出を育む。

デニム・ジーンズを思い出に残る品にリメイク

使わなくなったジーンズなどを、デニムの「母子手帳ケース」としてリメイク。デニムのアップリサイクルして新たな活用方法を提供する。

自分が使っていた思入れのあるデニムジーンズが子供の母子手帳ケースなどへと新たな形に変わる。長年の思い出の品がこれからも長く思い出の品となる。

フードロス削減のための学生フードシェア・サービス

食品ロスの現状や問題点を多くの人に伝えて食品廃棄の削減と資源の活用を促進。学内での学生間で仕送りや買い過ぎた食材を交換しあうフードシェアを企画する。

食品ロス問題への理解を深めて人々が社会の中で自分のできる行動を考えるきっかけを提供する。また、参加者に環境保護や社会貢献への意識を高めて有意義な活動に参加した達成感や充実感を感じてもらう。

「ギビングツリー」を通じた児童養護施設支援活動

企業等に設置したギビングツリー(子供たちの希望を募るツリー)を通じて、児童養護施設の子どもたちの希望するプレゼントを届ける。学生が企業との連携や運営を担い、地域・企業・福祉をつなぐ継続的な支援の仕組みを構築する。

子どもたちが「自分の願いが聞き届けられた」と感じることで、自己肯定感が高まるとともに、安心感や喜びを得ることができる。

担当教員：山口隆久、内田誠、高橋良平、張善会、鈴川康晴

所属学生数 39名

ポスター制作：(編集委員)三好耕太郎・二宮麗・今泉維人・山崎柑汰・平陽道・平田彩二・李明臻・魚住拓馬